

## 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	有資格若年者への就業マインドとマネジメント視点強化の教育プログラム開発		
法人名	学校法人石川学園		
学校名	専門学校 大育		
代表者	理事長 石川 正一	担当者 連絡先	石川 正剛 TEL098-885-5330

### 1. 事業の概要

近年、若年者層の離職率の高さが大きな問題となっているが、介護福祉士、美容師、調理師、歯科衛生士などの国家資格を必要とする職種についても例外ではなく、職業教育機関である専門学校においても離職への対応は教育上の重要な課題であるといえる。本事業はこの課題認識に基づき、まず、各国家資格取得者の就業状況や離職要因等の実態、及び、職業意識の高揚を狙う各種取組みの実態を調査した。その結果、最も人材需要が大きく、かつ、復職のハードルが高いのは歯科衛生士であること、また、そのハードルを超えるには就業マインド面の強化、及び、マネジメント視点の強化が有効であることが分かった。これらの調査結果を受け、本事業では、30時間の学習から成る「歯科衛生士の再チャレンジ研修プログラム」を開発し、かつ、そこで使用される主要な教材を開発した。開発した研修プログラムの有効性は、ブレンドイデラーニングを利用した3週間の実証実験講座によって確かめることができた。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

本事業は、国家資格の有資格者の離職要因が希薄な職業意識にあること、そのような理由で離職した者の再チャレンジには、就業マインドの強化と共にマネジメント視点の強化が有効であることを想定した事業の展開を行った。その結果、実態調査、研修プログラム及び教材開発、実証実験の一連の実施結果を通じて、事前に想定したことがまったくその通りであり、その観点から歯科衛生士に関する再チャレンジ研修プログラムの一つの形を確立できたことは、事業目的をそのまま達成できたと考えている。特に、就業マインドの強化において、3週間をかけて段階的に自身のキャリアを描くことを繰り返してトレーニングし、その中で現役の歯科医師や歯科衛生士の生の声を聞く手法によって、受講者の就業マインドが大きく変化したことは特筆に値すると考えている。この手法は、歯科衛生士に限らず、他の国家資格の有資格者が再チャレンジする機会においても有効であると考えられ、このような実証成果をあげられたことから、本事業の目的・重点事項の達成状況は当初予定以上のものがあつた。

#### ②事業により得られた成果

本事業で開発した総学習時間30時間の研修プログラムの内容は下記の通りである(カッコ内の数字は時間数)。

- 就業マインド強化
  - 概論(講義、1.5)
  - 「職業キャリア」意識の向上
    - ・キャリアシート作成演習Ⅰ(演習、2.5)
    - ・キャリアシート作成演習Ⅱ(演習、2.5)
  - 中間講座(講義、2.0)
  - 「セルフマネジメント力」の向上
    - ・セルフマネジメント演習Ⅰ(ケーススタディ・グループ演習、2.5)
    - ・セルフマネジメント演習Ⅱ(ケーススタディ・グループ演習、2.5)
  - まとめ講座(講義、1.5)
- マネジメント視点強化
  - 概論(講義、1.5)
  - 「人間関係マネジメント」の学習
    - ・人間関係マネジメント演習Ⅰ(グループ演習、2.5)
    - ・人間関係マネジメント演習Ⅱ(グループ演習、2.5)
  - 中間講座(講義、2.0)
  - 「経営感覚」に触れる
    - ・コストマネジメント演習Ⅰ(ケーススタディ・グループ演習、2.5)
    - ・コストマネジメント演習Ⅱ(ケーススタディ・グループ演習、2.5)
  - まとめ講座(講義、1.5)

### ③今後の活用

開発した教材はeラーニング環境で提供しているため、本校のOGたちが県内外において再チャレンジするような機会であってもすぐにでも使用可能であり、そのような機会に対する適用を積極的に図っていききたい。また、就業マインドやマネジメント視点強化は現役学生にとっても有効であり、本学のカリキュラムの中へ組み込みことも来年度において検討したい。

### ④次年度以降における課題・展開

就業マインドの強化という点では、今回実態調査の対象とした国家資格のうち、美容師や調理師に対しても大いに当てはまるものと考えられることから、他の職種への展開も考えていきたい。また、マネジメント視点強化は他の全職種に当てはまると考えられ、今回の事業成果を精査して、それぞれの職種に合ったケーススタディの開発にも取り組みたい。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

介護福祉士、歯科衛生士、美容師、調理師の国家資格について、有資格者の就業実態を調査した。その結果、仕事に向き合う現実感やその職務のもつ社会的意義、人生設計における仕事の位置づけなどが希薄であることに起因して、期待感とかけ離れた目先のマイナスイメージのみが拡大視され、離職に至るケースの多いことが分かった。同時に、介護福祉士や歯科衛生士については、有資格休業者が非常に多く、また、特に歯科衛生士については極めて人材需要の大きいことが分かった。職業意識や就業マインドの高揚を狙った各種取組みとして、厚生労働省が実施した「若年者キャリア支援政策(H14～H15)」、「YES-プログラム(H16～)」、及び、経済産業省が実施した「社会人基礎力に関する研究会(H17～)」の内容や実態を調査した。その結果、この数年で「職業マインド」、「キャリア形成」、「社会人基礎力」といった、就労のための基本的な概念形成を図る取組みがなされ、それが実を結ぶ方向性が徐々に具体的なものになりつつあることが分かった。

### ②カリキュラムの開発

本事業では、休職中の歯科衛生士有資格者をイメージして、就業マインドの強化、及び、マネジメント視点の強化をテーマとした総学習時間30時間の再チャレンジ研修プログラムを開発した。また、就業マインドとして、特に、「職業とキャリア」に関するマインドを高揚させるための教材、及び、「セルフマネジメント力(自己管理力)」を向上させるための教材を、それぞれ開発した。さらに、マネジメント視点として、特に、「人間関係マネジメント力」を身につけるためのケーススタディ教材、及び、「経営感覚」に触れ、その視点強化を狙った教材を、それぞれ開発した。

### ③実証講座

構築した研修プログラムの主要な部分について、教材の一部をeラーニング化した上で、最初に「ガイダンス」、その2週間後の「中間講座(特別講演を含む)」、その1週間後の「まとめ講座」から成る3週間に渡る実証実験講座を企画した。受講者としては、技術がまだ未熟で、就業マインドやマネジメント視点に乏しい歯科衛生士学科の1年生15名をあえて設定し(特別講演は全学年約100名が受講)、構築した研修プログラムの有効性を確かめた。実証講座の結果、受講者における講座当初の就業マインドは大きく高揚し、また、マネジメント視点も身についたことが確かめられた。

### ④その他

本事業の実施にあたって最も工夫したのは、研修プログラムの実施に一定の期間を設定してメリハリをつけたことである。これは元々計画段階から予定していたことであるが、適度に長い期間を設定し、段階的に一つの課題に取り組ませた成果は、期待以上のものがあった。この結果は今後の教育事業の中で大いに活かしていきたいと考えている。